

## 小田原市教育委員会定例会会議録

1 日時 令和6年7月31日(水)午後4時00分～午後5時45分

場所 小田原市役所 3階 全員協議会室

### 2 出席者氏名

1 番委員 柳 下 正 祐 (教育長)

2 番委員 益 田 麻衣子 (教育長職務代理者)

3 番委員 井 上 孝 男

4 番委員 菱 木 俊 匡

5 番委員 秋 元 美 里

### 3 説明員等氏名

教 育 部 長 菊 地 映 江

教育部副部長 有 泉 三裕紀

教育総務課長 岡 田 夏 十

保健給食課長 吉 澤 太 郎

教育指導課長 中 山 晋

教育相談担当課長 松 澤 俊 介

教育指導課指導主事 岩 立 忠

教育指導課指導主事 山 田 ななえ

教育指導課指導主事 柳 下 仁 志  
(事務局)

教育総務課係長 三 浦 慶太郎

教育総務課主任 漆 崎 亜 結 美

### 4 報告事項

(1) 市議会6月定例会の概要について【資料配布のみ】 (教育部・文化部)

(2) 小田原市社会教育委員会議活動報告書について (生涯学習課)

### 5 議事日程

日程第1 報告第3号 事務の臨時代理の報告(社会教育主事の解任について)について  
(生涯学習課)

日程第2 議案第17号 小田原市社会教育委員の委嘱について (生涯学習課)

日程第3 議案第18号 令和7年度使用教科用図書(小中学校特別支援学級用)の採択について  
(教育指導課)

日程第4 議案第19号 令和7年度使用中学校教科用図書(国語・書写・社会(地理的分野・歴史的分野・公民的分野)・地図・数学・理科)の採択について  
(教育指導課)

### 6 議事等の概要

(1) 柳下教育長開会宣言

○柳下教育長 本日の出席者は5人で定足数に達しております。

なお、本日の傍聴者の定員につきましては、小田原市教育委員会傍聴規則第4条ただし書の規定に基づき、30人とします。

(2) 6月臨時会及び6月定例会議事録の承認

(3) 議事録署名委員の決定…3番 井上委員、4番 菱木委員に決定

---

○柳下教育長 はじめに、報告事項(1)「市議会6月定例会の概要について」は、資料配布とさせていただきますので、御了承ください。

(4) 小田原市社会教育委員会会議活動報告書について (生涯学習課)

○生涯学習課長 それでは、御説明申し上げます。

資料1 小田原市社会教育委員会会議の活動報告書「新しい生活様式を踏まえた社会教育・生涯学習のあり方とその可能性について」を御覧ください。

「小田原市の社会教育・生涯学習のあり方について」は、平成24年に社会教育委員会議会が教育委員会から諮問を受け、平成26年に答申を提出しております。

一方で、令和5年度からスタートした「第2期小田原市教育大綱」及び「第4期小田原市教育振興基本計画」においては、これまでの学校教育中心の計画から、社会教育・生涯学習も対象となり、人生100年時代を見据えた「生涯の学び」という新たな視点を加えた幅広い計画となりました。

そこで、平成26年の答申では触れられていなかった内容を社会教育・生涯学習における「新たな学びの視点」として捉え直し、コロナ禍を経た新しい生活様式を前提としながら、より良い学びの実践につながるようなアイデア、意見等を協議することで、新たな教育振興基本計画の一層の推進を図ると共に、社会教育・生涯学習の可能性を探ることをねらいといたしました。

本活動報告書は、今期2年間の会議を通して、5つの「新たな学びの視点」について、「教育振興基本計画」にある対象施策の担当課から情報提供された資料を参考にしながら、協議に当たっては、コロナ禍を経た新しい生活様式を踏まえた4つの考察ポイントを意識することとし、各委員の皆様にご各施策のより良い実践のためのヒントやアイデア、事例、若しくは、それぞれの学び全般についての意見など、より自由な発言をお願いしました。

5つの個別テーマに対して多様な意見等が寄せられたため、極力そのまま伝えるシンプルな「活動報告書」としました。

では、活動報告書の概要について御説明いたします。

3ページから23ページまでは、新たな学びの視点として設定した、5つの個別テーマである「多様性を認め合う学び」「生涯健康であるための学び」「自分らしく自立するための学び」「命を守る学び」「みんなで子どもを育む学び」について、教育振興基本計画の位置付けを赤枠内で示した上で、各委員の御発言を、前半に〔現況・課題等〕、後半に〔意見・アイデア等〕の2つに振り分けて並べました。その中で、それぞれキーワード又は主なポイントと言える部分を「太字」にして強調しています。また、5つの学びのうち、多くの意見が飛び交った「スポーツの振興」の協議における「部活動の地域移行」と、「おだわらっ子の

約束の普及と実践」及び「家庭教育への支援」の協議における「『おだわらっ子の約束』の再評価と『家庭教育支援条例』」については、【協議内容】の扱いを独立させています。

活動報告書24ページから26ページまでは、最後の章として、5つの「学び」を協議するに当たって意識しようとした「コロナ禍を経た新しい生活様式を踏まえた4つの考察ポイント」である「ICT等デジタル技術の活用」「デジタル・デバインド、対面コミュニケーション不足の対策」「学校・地域・家庭等が連携する“つながる学び”」「誰一人として取り残さない工夫」について、個別のテーマにおいては、具体的に触れることが困難であったことから、これまでの協議内容を振り返りながら、総括的にまとめました。

以上、今回の活動報告書は、教育振興基本計画に位置付けられた各施策のより良い実践のためのヒントやアイデア、意見などについて、社会教育委員会議における協議内容をまとめたものとなっております。

それぞれの施策において、一律に取り入れることは難しいと思われませんが、今後の施策推進のためのヒントやアイデアとして、参考にしていただくことを願っております。

社会教育委員会議の事務局を務める生涯学習課では、今後、この活動報告書を社会教育・生涯学習の場で活用するほか、教育振興基本計画に位置付けられた各施策の参考となるよう、今期の協議に参加した関係各課へ配布するとともに、教育振興基本計画の一層の推進を図るための資料として活用していただくよう教育委員会教育総務課へ提供する予定であります。

以上で説明を終わらせていただきます。

(質疑・意見等)

**○益田委員** 新しい教育振興基本計画に生涯学習が入ったというところで、これから先、より社会教育委員会議の持つ意味というものが深まると思います。今回の報告書ですが、各委員の立場から貴重な御意見をたくさんいただいています。それをまとめて出して、先ほどこれから活かしていくと仰っていましたが、この提出先も諮問・答申ではないため、市長に出すわけではありません。これを最終的にはこれまでやっていたように、諮問・答申という形で市長、教育長に提出する形でまとめて欲しかったです。せっかくこんなにやっていただいているので、これをどのように教育振興基本計画につなげていくか、きちんと来期の2年間でまとめていって欲しいと思います。

(その他質疑・意見等なし)

---

(5) 日程第1 報告第3号 事務の臨時代理の報告(社会教育主事の解任について)について (生涯学習課)

**○生涯学習課長** それでは御説明させていただきます。

議案書をおめくりいただき、資料を御覧ください。生涯学習課 主任 林 悠作につきまして、7月1日付人事異動に伴い、令和6年6月30日付で社会教育主事を解任したものでご

ございます。なお、本件につきましては、小田原市教育長に対する事務委任等に関する規則第3条に基づき、教育長が臨時に事務を代理しましたので、御報告するものです。以上でございます。

(質疑・意見等なし)

---

(6) 日程第2 議案第17号 小田原市社会教育委員の委嘱について (生涯学習課)

**○生涯学習課長** それでは、御説明申し上げます。資料「小田原市社会教育委員候補者名簿」を御覧ください。

小田原市社会教育委員の任期は、小田原市社会教育委員条例により、2年間と定められており、7月31日をもちまして任期満了となります。そのため、小田原市社会教育委員条例第2条第2項の規定に基づき、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から選考いたしましたところ、名簿にございます12名の方々が社会教育委員として適任と思われまますので、新たに委嘱いたしたく提案するものです。なお、この12名の方々のうち7名の方は、市校長会、市自治会総連合、及び市PTA連絡協議会など団体から御推薦いただいております。今回の社会教育委員の任期につきましては、令和6年8月1日から令和8年7月31日までの2年間となります。

よろしく御審議くださいますようお願いいたします。

(質疑・意見等なし)

採決…全員賛成により原案のとおり可決確定

---

(7) 議案第18号 令和7年度使用教科用図書(小中学校特別支援学級用)の採択について (教育指導課)

**○教育相談担当課長** それでは、御説明申し上げます。

議案書をおめくりいただき、「令和7年度使用教科用図書(小学校・中学校 特別支援学級用)の採択について(案)」を御覧ください。

はじめに、特別支援学級の児童生徒が使用する教科用図書につきましては、通常の学級で使用する教科用図書が適当ではない場合、一般図書(附則第9条図書)及び、特別支援学級用・教科書目録の2種類から、その児童生徒の学習に適切な図書を選び、教育委員会が、毎年それらを教科書として採択することになっております。

委員の皆様、御審議いただく「令和7年度使用教科用図書(案)」につきましては、各児童生徒用の図書として、No.1から264までの264冊を発行者ごと、1から13ページに、また、文科省著作教科用図書、いわゆる星本については、No.265から272まで8冊を14ページに、お示ししてございます。なお、星本につきましては、欄外注意書きにもございますように、各校からの希望がなかった(一覧に記載のない)ものについても採択を希望いたします。

いずれの図書も、各学校の特別支援学級の担当者が、児童生徒の個性や発達段階、障がい具合などを考慮しまして、「個別最適な教科書は何か」という視点で、神奈川県立特別支援学校・採択教科用図書・調査研究資料等を参考に、保護者と相談し、選択しましたものとなっております。

そして、この一覧は、各学校からの希望の書籍と、その理由につきまして、教育委員会事務局において精査し、学校の報告書の記載をもとに、とりまとめたものとなっております。

以上で、説明を終わります。

(質疑・意見等)

**○柳下教育長** これは各学校と保護者とが相談した上で選択したということで良いでしょうか。

**○教育指導課指導主事** おっしゃる通り、各学校と保護者とが相談した上で、選択したものです。

**○柳下教育長** その希望理由が1冊ずつ書かれているということで良いでしょうか。

**○教育指導課指導主事** その通りです。

(その他質疑・意見等なし)

採決…全員賛成により原案のとおり可決確定

---

(8) 議案第19号 令和7年度使用中学校教科用図書(国語・書写・社会(地理的分野・歴史的分野・公民的分野)・地図・数学・理科)の採択について (教育指導課)

**○教育指導課長** それでは、私から御説明申し上げます。

今年度は、令和7年度から使用する中学校の教科用図書の採択年度となっております。

本日の教育委員会定例会及び後日行われる教育委員会臨時会において、文部科学省の教科書目録に登載されている教科用図書の中から、小田原市の生徒に最もふさわしい教科書を、教育委員の皆様、採択権者として採択していただきます。

協議にあたって、皆様には、事前に神奈川県教育委員会が作成した「中学校、義務教育学校の後期課程、中等教育学校の前期課程 教科用図書調査研究の結果」と、小田原市教科用図書採択検討部会が作成した「令和7年度使用 中学校教科用図書 調査研究報告」をお渡ししておりますが、これらの資料に加え、皆様が独自に調査研究をしていただいた内容をもとに、御協議いただくこととなります。

なお、本日、採択していただく種目は、議案書にありますとおり、国語、書写、地理、歴史、公民、地図、数学、理科の8種目です。

説明は以上です。

(質疑・意見等なし)

**○柳下教育長** 採択の方法を確認します。令和7年度使用中学校の教科用図書について、種目ごとに各委員から御意見をお聞きした後に、多数決を行い、候補とする図書を決定していきます。本日予定している8つの種目の図書の候補が決定した後、一括で採決を行います。図書に関する御意見につきましては、皆さんの独自の調査研究をもとに、小田原の子どもたちにとって最もふさわしいと考える教科書について、1社または2社について御発言ください。多数決で過半数のものがあればそれを候補としますが、過半数となるものがない場合、再度上位2社または3社による多数決を行います。このような方法で進めていきたいと思いますが、いかがでしょうか。

(異議なし)

**○柳下教育長** 御異議もないようですので、よろしくをお願いします。

それでは国語から候補の決定を行います。国語は、4社が発行しております。委員の皆様から御意見を伺います。益田委員から順番にお願いします。

**○益田委員** 国語ですが、国語力というのは全教科に影響すると思っております。そのため、語彙力や文章の読解力を身に付けられることが一番だと考えています。それに加えて、漢字を習得するための工夫、読書への興味をつなげられるような工夫があるかというところに視点を置いて選びました。その中で良いと思ったのは光村図書と三省堂です。

光村図書は、各教科の「学びへの扉」で、学習の流れを明示することで、主体的な学びが引き出せるようになっていました。漢字の習得に苦手を感じる生徒も多いと思いますが、「漢字に親しもう」など漢字を学ぶページが多く設けられていました。また、二次元コードの漢字の練習では、タブレットでゲーム方式で学ぶのではなく、ワークシートに書き込む形になっていて、学習の定着が図りやすいのではないかと思います。各単元の扉にある「言葉を味わう」では、日本語の多様性と美しさに触れる機会を作っていて良いと思いました。

三省堂は、「学びの道しるべ」で、学習の見通しと振り返りができるようになっていました。こちらも漢字の仕組みや漢字を身に付けようなど漢字のコンテンツが多くなっていました。また、資料編の「読書の広場」では、古典や近代文学など、様々なジャンルの作品を紹介しているのが良いと思いました。以上のことから、私は、光村図書と三省堂を推します。

**○菱木委員** まず光村図書ですが、小説では「学びの窓」で目標を設定し、心情変化、描写、そして解釈、最後に漢字という流れになっていました。詩は「学びの窓」で目標を設定し、創作、語彙といった流れとなっていて、学びやすく、よくまとまっていると思いました。物語は、長いので先生が「何行目」と言ったときに探すのが大変ですが、光村図書は何行目にといいのも5行ごとに文末に記載されていて、先生が教えやすく、生徒にも先生が指示した文を探しやすい工夫がされていて良いと思いました。デジタルコンテンツですが、奥の細道の朗読音声もありまして、非常に高い有用性を感じました。それから巻末には、漢字の練習がしやすいように各学年で学習する重要漢字一覧があるということと、資料として使える古典・近代文学

の名作、日本文学の歴史も取り上げられ、国語という学問だけでなく、文学自体の歴史にも興味を持たせるような構成がされていて良いと思いました。

三省堂ですが、開いたときに紙が白く、非常に文字が見やすいと感じました。小説では光村図書と同じように、文末に新出漢字・新出音訓が掲載されていて、それから「学びの道するべ」、「読み方を学ぼう」、「グループディスカッション」、「漢字を身につけよう」という流れで、詩では「学びの道するべ」、「学びを広げる」、「私の本棚」といった流れで記載されていました。光村図書と同じように物語では5行ごとに文末に何行目かわかるように記載されていて、かなりやさしい配慮だと思いました。デジタルコンテンツでは、物語は読んでいて難しいところもありますが、登場人物の人間関係も記載されていましたし、物語自体の音読というものがあって、不登校の生徒が学習する際にも使いやすいと思いました。巻末には本文では使われなかった漢字、見やすい常用漢字一覧もありまして、漢字演習の学びがしやすい工夫がされていました。

両社の教科書に大きな差はありませんでしたが、私は本を開いたときの文字の見やすさと、不登校の生徒にも音読があると非常に使いやすいと思いましたので、三省堂を推薦いたします。

**○秋元委員** 私は、言葉の力を最も大切にしている東京書籍を薦めたいと思います。教材の冒頭に目標が掲げられていますが、その目標が、生徒の目線でもとても分かりやすく言及されているので、何をポイントとして読めば良いのか、読み解けば良いのか、非常につかみやすかったです。また、手引きという構成が、見通すとかつかむ、読み深める、考えを振り返る、言葉の力というように明確に分かれていて、何をしたら良いのか、読みやすかったです。効率良く身に付くのではないかと思います。また、デジタルコンテンツが多彩で、アニメーションやシミュレーション資料など自宅学習に非常に役に立つのではないかと感じました。そのため、私は東京書籍を薦めたいと思います。

**○井上委員** 各社とも学びの目標を分かりやすく示していると思いました。

まず、三省堂は、各題材ごとの思考の方法が示されていて、学びやすいと思いました。古典年表や絵巻で辿る図が良く、興味が持てるのではないかと思います。他の教科書も著者の言葉や題材を活かすための資料がデジタルコンテンツに収められ、素晴らしい教科書だと思いました。多くの読書作品が紹介され、読書に興味を持てるようになっていて、国語の教科書として、どれも大事だと思いました。これらの中から特長的なところを見ながら、総合的に見ていると、私は光村図書を推したいと思います。

題材からどんな学習をして、どんな力を身に付けるのか、目標が示されていて、学びやすいと感じました。古典に興味を持てるように字体が太字で大きく、読みやすく、時代を意識した古典年表や古典のつながりも古典作品に親しみを感じられると思いました。生徒たちは、古典や昔の文学に疎遠になってしまうようなところもあるのですが、こういうところが親しみを持って臨めるのではないかと思います。教科書の中に綴じこまれた「語彙ブック」や資料編も充実していると思いましたので、光村図書を推したいと思います。

○柳下教育長 どの教科書も子どもたちの力を付けるということでは共通していると思います。その中で、光村図書と三省堂が特に良いと思いましたが、最終的には、私は光村図書を推したいと思います。

三省堂は、「学びが分かる」、「対話を通して深める」、「学びをつなげる」を柱にしている、主体的に課題を解決する力を高めよう、力を付けようとする工夫が良いと思いました。

光村図書は、国語を学ぶ上で大切なことは、私は生徒一人一人が物語や詩、古典や言葉などと対話をして、読み取ったこと、感じたことを友達と比べてさらに自分の読みを深める、言葉を大切に読む、味わう、読書を好きになるということが重要だと考えていますが、そういう点で光村図書は、一つは生徒の力を付ける、そういうまとまりがあるということ、主体的な学びのために工夫がされているということ、それから小学校から中学校になると教科書が厚くなり、難しくなりますが、1年生の教科書は小学校から中学校へのつながりがうまくできていると感じています。また、言葉を大切にしていると思います。学習指導要領では、「言葉による見方、考え方を働かせ、言語活動を通して国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成する。」として、三つの具体目標が示されていますが、その中で「言葉を重要視している」と思います。言葉の持つ奥深い意味や、大切さ、温かさ、厳しさを、そういうものが味わえる、学べる、そういう教材が配列されていると感じました。また、読書好きになる工夫がされていると思いました。それが小田原の現場で長く使われている理由の一つだとも考えますので、光村図書を推したいと思います。

○柳下教育長 それでは、各委員からの御意見を伺いましたので、多数決に移ります。今から出版社名を読み上げますので、そこで挙手をお願いします。(1社ずつ、挙手による多数決)

東京書籍	…	1票
三省堂	…	1票
教育出版	…	0票
光村図書	…	3票

○柳下教育長 多数決の結果、「光村図書」が候補となりました。

○柳下教育長 それでは次に、書写の候補の決定を行いたいと思います。書写は、4社が発行しております。委員の皆様から御意見を伺います。

○益田委員 書写は、光村図書を推したいと思います。光村図書では、手書きの良さを考えることで、書写を学ぶ意識を明確にしていると感じました。また、「全国文字マップ」、「文字の歴史を探る」など、文字に対しての興味を持たせる工夫もされていました。一番は、お手本を見開きにして、半紙大に示してあって、バランスなどを捉えやすくしながら、書けるような工夫がされていたのが良いと思いました。

○菱木委員 私は、教育出版と光村図書が良いと思いました。まず教育出版ですが、サイズが一番大きい教科書でした。毛筆のすぐ後に硬筆が同じページに記載されていて、毛筆の書

き順や、とめ、はねを硬筆に活かすという構成で硬筆の勉強にも便利だと思いました。手本は半紙とほぼ実物大で見やすく、筆づかいの解説も分かりやすく、書きやすいと思いました。また、「書式の教室」では、手紙、封筒、年賀状、包み書きの書き方、電子メールの書き方まで示されていて、非常に現代に適した構成だと思いました。

次に光村図書ですが、開いたときに見やすく、使いやすいサイズだと感じました。私は元左利きなので意識しているのですが、光村図書は左利きの生徒のために、用具の配置を示した写真が掲載して、左利き用の教科書の紙面や動画も用意されていたので、左利きの生徒も使いやすい親切な構成だと思いました。毛筆の手本が全て掲載された後に、硬筆がまとめて記載されている構成でしたが、毛筆では朱色の筆使いの訂正もすっきりしていて分かりやすいと思いました。また、「日常に役立つ書式」では、手紙や封筒、大学願書、デジタル付箋まで網羅されていて、今後の生活に配慮したおもしろいつくりになっていると思いました。以上から誰にでも使いやすく、左利きの生徒にも配慮されている光村図書を推薦したいと思います。

**○秋元委員** 私は、教育出版を薦めたいと思います。大判なことと、右ページにお手本の文字を掲載して、左ページに書き順やポイントなどを確認できるようになっているのが、大きい分見やすかったです。また、学習のステップが分かりやすく、アイコンで「目標」、「考えよう」、「生かそう」、「振り返ろう」などが示されていて、その手順が一目瞭然で分かりやすいと思いました。また、毛筆で学習したことを硬筆に活かせる工夫がされていると思いました。最後の方に、「書式の教室」があり、便せんやはがきの書き方、案内状、慶弔関係、願書の書き方などが紹介されているのが、将来にも役立ちますし、充実していると思いました。

**○井上委員** 私は教育出版を推したいと思います。デジタルコンテンツが充実しているところ、お手本と同じ大きさのワイド版を使用しているところ、筆順、筆づかいのポイントなどの説明、解説が非常に分かりやすくなっていると思います。

**○柳下教育長** 私は、各社ともに工夫はされていて、どこも良いと思いましたが、光村図書と教育出版が良いと思いました。最終的には、光村図書を推したいと思います。

教育出版は、デジタルコンテンツが他社より良いと思いました。

光村図書は、いろいろな要素がまとまっているところが良いと思いました。見開きが分かりやすいこと、硬筆の練習帳が別冊となっていて生徒が使いやすいこと、説明がていねいで、毛筆では書き方が二次元コードで教科書にも筆順や筆づかいのポイントが示されていることなど、生徒が使いやすいという点が良いと思いました。

**○柳下教育長** それでは、皆様から御意見を伺いましたので、多数決に移ります。出版社名を読み上げますので、挙手をお願いします。（1社ずつ、挙手による多数決）

東京書籍	…	0票
三省堂	…	0票
教育出版	…	2票
光村図書	…	3票

○柳下教育長 多数決の結果、「光村図書」が候補となりました。

○柳下教育長 次に、地理の候補の決定を行います。地理は、4社が発行しています。委員の皆様から御意見を伺います。

○益田委員 地理は、世界や日本の地域を自然・産業・文化などを通して多面的に理解できるような教科書が良いと思っています。その中で私が良いと思ったのは、帝国書院です。

帝国書院は、「学習を振り返ろう」で、その節で学んだ知識を振り返り、自分の考えをまとめるという流れになっており、生徒が主体的に学べるのではないかと思います。「アクティブ地理」というところでは、歴史的分野や公民的分野とも関連するテーマが設定されていて、多文化の学習と関連する視点が提示されていて、多角的、多面的に考える工夫がされていると思いました。「未来に向けて」では、様々な地域課題に対する取組が紹介されていて、SDGsに興味を持てるようなつくりになっていました。また、「技能をみがく」というコラムでは、地図帳や統計、グラフなど基礎的な技能を学べて、資料活用の問いから活用できるようになっていました。生徒が様々な面から地理が理解できるような工夫が多々あったので、帝国書院を推したいと思います。

○菱木委員 私は、教育出版と帝国書院について述べたいと思います。

まず、教育出版ですが、見開きの左ページの学習課題のコーナーで、何について探究するか確かめ、それから本文や写真等で学習した後に、見開きの右ページの「確認」のコーナーで学習したことを振り返り、学習事項の確実な定着を図るという構成になっており、勉強しやすいと思いました。それに続く「表現」のコーナーでは、学習したことを活用してまとめたり、話し合ったりすることで、他者との交流を契機に自分の意見をさらに深めるというような配慮がされていました。また、「世界の諸地域」の章では、地理学的な事項ではなく、各州の地球的な問題と各州のその課題がSDGsの何番目に関係しているかということが提示されていて、その対策を生徒自身が考えるという構成になっていて良いと思いました。

次に帝国書院ですが、まず、地図が立体的で見やすいと思いました。「技能をみがく」のコーナーでは、地図の読み取り方ではなく、地図の使い方や基本的な技能が習得しやすくなっていて、おもしろいと思いました。「学習を振り返ろう」のコーナーでは、定着した知識をもとに、地図や写真を用いて、学習した知識や自分の考えを整理して、課題解決を図るようなプロセスが学べるような構成になっていました。「アクティブ地理」では、現在日本でもそうですが、オーバーツーリズムが問題になっている観光や地域に適した再生エネルギーなど、正解が一つではない現代社会の課題を取り上げて、様々な立場で解決策を考えて、他人との合意形成を図るというプロセスが学習できる工夫がなされていて良いと思いました。デジタルコンテンツですが、NHKの番組のリンクも設けられていて、楽しみながら学習できる環境が提供されていたので良いと思いました。教育出版も帝国書院も学習した中から課題を見つけて、探究し、考え、答えをみんなで話し合い、そして考えるという構成を重視していましたが、地理ですので、地図と写真が見やすい帝国書院を推薦したいと思います。

○秋元委員 私は、帝国書院を薦めたいと思います。地域ごとに学んでいきますが、地域ごとの最初の見開きページの地図やイラストが一番見やすいと思いました。また、地域の特色

もつかみやすかったですし、写真がその後の本文にうまく関連づけられているので、地理的な見方や考え方がスムーズに導かれる構成だと思いました。また、「学習を振り返ろう」というまとめのページでは、振り返るページも書かれているので、復習がしやすいと思いました。また、「アクティブ地理」というページに私も注目しましたが、SDGsや防災、自然環境を活かした発電方法など、社会的な課題を解決する糸口を学習として設けているのが、これからの時代に役に立つと思いました。

**○井上委員** 教育出版は、内容に合わせた資料が見やすく、課題をもとに、確認、表現を深めることができる点で良い内容だと思いました。

帝国書院は、地理なので、地図が見やすいのがポイントになると思いますが、資料が分かりやすく、情報量が多い、親しみやすいイラストと写真が多く掲載され、全体的なまとまりが良いと感じました。「アクティブ地理」の現代社会の問題解決を考える学習というのがとても良く、中学生にはぜひ学んでほしいと思いました。最終的には帝国書院を推したいと思います。

**○柳下教育長** 私は、4社とも工夫がされていて良いと思いますが、その中で帝国書院と教育出版の2社が良いと思いますが、最終的には帝国書院を選びました。

教育出版は、学習の内容のまとめがしっかりできるという点で良いと思います。

帝国書院は、学習指導要領に記載されているように、「日本や世界の諸地域の諸事情や、日本では特に「小田原」ということを重視してほしいのですが、地域的な特色を理解すること、また、地域相互の関連を位置や分布、場所、人間と自然との相互依存関係などに着目して、問題を発見解決して、また、新たな問題へと導く」とされていますが、まさにそういうつくりになっていると思います。たとえば、地域ごとに学んでいく見開きのページの地図、イラストがとても見やすいです。そして地域の特色をつかみやすいことなどが挙げられます。小田原市では小田原の教材化を進めています。地理では世界や日本の各地域を学びますが、最終的には自分の土地に帰ってきてもらって、その良さを実感できることが大事だと思いますので、地域の特色をつかみやすいということは、大きなポイントだと思いました。また、地図帳との関係も挙げられますが、教科書の中の地図が大変きれいだと思います。とても見やすいということ、写真やグラフも同様であるということから帝国書院を推したいと思います。

**○柳下教育長** それでは、皆様から御意見を伺いましたので、多数決に移ります。出版社名を読み上げますので、挙手をお願いします。（1社ずつ、挙手による多数決）

東京書籍	…	0票
教育出版	…	0票
帝国書院	…	5票
日本文教出版	…	0票

**○柳下教育長** 多数決の結果、「帝国書院」が候補となりました。

○柳下教育長 次に歴史の候補の決定を行います。歴史は9社が発行しております。委員の皆様から御意見を伺います。

○益田委員 歴史は、年号や事象を暗記することに偏りがちですが、そうではない教科書が良いと思って選びました。その中で帝国書院と教育出版が良いと思いました。

帝国書院は、その事象の裏にある人々の立場や思いに着目して、様々な面から歴史を捉える工夫がされていると感じました。特に最初の「歴史的分野を学ぶ意義」の中にある「歴史の舞台に立って人々が置かれた状況や多様な願いへの理解を深めていけば、未来へ向けても多様性を踏まえた社会の成長を考えていけるようになるでしょう。私たちは、未来のために歴史を学ぶのです。」という文が、歴史が昔から将来まで時間の流れが続いているということが分かるような言葉だったので共感しました。また、1時間で学ぶ内容が、「導入」、「学習課題」、「本文」、「確認しよう」、「説明しよう」の展開で、見開き1ページにまとまっていて、見通しをもって学習できると思いました。「タイムトラベル」のページが章の始めにあります。そこで人々の暮らしの移り変わりがイラストによって各時代で比べられるようになっていて、生徒の興味を引いて、その時代を学ぶことへの意欲へつながると感じました。「未来に向けて」というコーナーでは、SDGsにも関連して、未来の社会をつくるための参考となる先人たちの取組を紹介していました。

教育出版は、見開き2ページで完結できるようなつくりになっていて、学習の見通しがつきやすいと思いました。また、コラムの「歴史の窓」や特設ページが充実していて、様々な視点から歴史を捉え直すことができると感じました。

2社で悩みましたが、私は帝国書院を推したいと思います。

○菱木委員 歴史は、教科書の主観も入りやすいため、生徒が偏った歴史観を持たないように作られていて、生徒自身が教科書に記載された資料から自分なりの歴史観を取得できる内容になっているかということを経験的な観点として各社の教科書を拝見しました。

まず教育出版ですが、単元の導入ページの「Look」に示された視点をもとに資料を読み解いて、単元の課題をしっかりと学べる工夫がされていました。また、単元ごとの最後にある「資料を読み解いて時代を振り返ろう」というコーナーでは、資料から情報を読み取り、抜き出して、時代の特色を考え、内容を深めるという構成になっていました。それからコラムの「歴史の窓」では歴史上の人物が取り上げられていて、その人物の行動や目的や周囲への影響を考察することで歴史を多面的に理解できる工夫がされていると感じました。

帝国書院ですが、各時代の最初のページに大きなイラストがあり、「タイムトラベル」では重要な場面や生徒の興味や関心を引き出す工夫がされていました。また、見開きの右ページの端には、インデックスにもなると思いますが、縦長の年表がついていて、今自分が何を勉強しているのか、時代はどの辺りなのか、生徒が再認識しながら勉強でき、使いやすいと感じました。また、現代の日本でも問題になっている「アイヌ民族」なども取り上げ、日本の歴史を多面的に捉える構成となっていて、現代と未来を繋ぐ歴史観の形成にも関与しているように感じました。巻末の人物索引、事項索引、年表、地図もきれいで最後にまとめながら勉強しやすいと感じました。

以上から主観も含めて偏りのない記載がなされていて、最後のまとめの学習がしやすく、色刷りもきれいな帝国書院を推薦したいと思います。

**○秋元委員** 私は、様々な視点から歴史を捉えられる点から帝国書院を薦めたいと思います。「タイムトラベル」という単元の最初の見開きのイラストにインパクトがあり、イラストを見ながら想像させるということが生徒の関心や興味を引き出しやすいと感じました。また、二次元コードからは「NHK for school」へつながるようになっているのも、学びを深めるには最適だと思いました。また、「学習を振り返ろう」では、テスト形式のような知識の定着を図るページがありますが、生徒同士の話し合いや考え方を引き出すようなまとめコーナーも設置されているのが、理解を深めるのに良いと思いました。

**○井上委員** 歴史観というものをどういう風に捉えるかということは大切だと思いますが、中学生の教科書なので、分かりやすいものが良いと思っています。それぞれの教科書でステップアップ、確認、表現など、学習を進める上で、読み取りやすく、学びやすい工夫が示されていてどの教科書も良いと思いました。その中で、分かりやすいということを全面的に考えていくと、帝国書院の「確認しよう」、「説明しよう」、この問いが具体的で、意欲的に学んでいけるように思いました。また、どの教科書も写真やデータなどが豊富で良いですが、特に帝国書院の「タイムトラベル」は、大きなイラストで示された背景を見ながら、自分があたかもその時代にタイムスリップして、これから学ぶ時代の特色を興味関心を持って学んでいけるような教科書だと感じましたので、帝国書院を推したいと思います。

**○柳下教育長** 今回9社が発行されていてそれぞれ特徴的な教科書もあると感じていますが、その中で帝国書院と教育出版を選び、最終的に帝国書院を推したいと思います。

教育出版は、学びの力で人と社会を未来へつなぐ理念が良いと思います。社会をつくっていく子どもたちを育てるという考え方が小田原の目指す社会力の育成につながっていて、この考え方が良いと思います。

帝国書院を選んだ理由は、私は歴史を学ぶ意義は、過去のその時代のその時々の人々の生活の様子や政治や文化を学んで、それに対して自分の考えをしっかりと持つこと、そして自分の生き方、どういう世の中を作っていくのかということの参考にすることだと考えます。この二つのことが大切だと考えますが、帝国書院はそのような学びができると思います。また、社会の主権者として生きるための学びが保証されていると感じます。生徒の興味関心を高める工夫がされているとも感じます。具体的には歴史的な事実を把握するための写真の資料や図、表やグラフなどの資料が豊富であること、興味関心を持って学ぶための工夫、「タイムトラベル」や各章の終わりの「学習を振り返ろう」では、各章の自分の問いに対する考えをまとめて、他者との比較検討などを通して自分の考えをさらに高めていく、友達と高め合っていくというそういう工夫が良いと思います。また、現場の教師が使いやすい教科書が良いと思い、現場の教師の声を大切にしていきたいと考えます。小田原は歴史を学ぶ素材がたくさんあります。小田原市は小田原の教材化を進めています。他社にもありますが、帝国書院にも地域史があり、地域の博物館や碑などから学ぶ工夫が良いと思います。自分の生き方を振り返る点が帝国書院が一番良かったと思いますので、帝国書院を推したいと思います。

○柳下教育長 それでは、皆様から御意見を伺いましたので、多数決に移ります。出版社名を読み上げますので、挙手をお願いします。（1社ずつ、挙手による多数決）

東京書籍	…	0票
教育出版	…	0票
帝国書院	…	5票
山川出版	…	0票
日本文教出版	…	0票
自由社	…	0票
育鵬社	…	0票
学び舎	…	0票
令和書籍	…	0票

○柳下教育長 多数決の結果、「帝国書院」が候補となりました。

（暫時休憩）

○柳下教育長 公民の候補の決定を行います。公民は6社が発行しております。委員の皆様から御意見を伺います。

○益田委員 公民は、社会の仕組みを理解し、自分も社会の一員であることを認識できるような教科書が良いと思って選びました。その中では、帝国書院と東京書籍が良いと思いました。

東京書籍では、18歳へのステップというところがあり、18歳でできるようになること、20歳でできるようになることが明確に書かれていました。見開き1ページで導入から「チェック&トライ」の流れで、学習内容が定着できるような工夫がされていると思いました。

帝国書院は、章の導入部分の「学習の前に」の大きな絵がとても印象的で社会について身近な問題として捉えられるような工夫がされていると思いました。「アクティブ公民」のコーナーでは、ロールプレイングやディベートなどを使って、学習事項を確認するという作業の中で、様々な立場に自分が立って考え、自分の意見を伝え、みんなで話し合うという機会が設けられていて、様々な視点から物事を捉えられるようになっていました。「学習を振り返ろう」の部分では、その章で学んだ知識から自分なりに考えたことをまとめられるようになっており、また、思考ツールの活用も充実していて、自分の考えをまとめるときに役に立つと思いました。

以上から私は帝国書院を推したいと思います。

○菱木委員 私は、教育出版と帝国書院が良いと思いました。

まず、教育出版ですが、1945年以降の年表である「日本と世界の歩み」が12ページにあり、近代史を意識しつつ、公民を学ぶという姿勢が強調されていました。各章のはじめに2、3枚の写真が提示されていて、「学習のはじめに」、「ウォーミングアップ！公民」からは

じまり、「学習の見通し」と「学習のまとめと表現」の順に掲載されていて、生徒の学習のしやすさと、教師の教えやすさを感じさせる構成となっていました。種々のキャラクターが疑問を提示して話し合いの場を設定するという工夫も認められました。索引は、公民の中では教育出版のものが一番見やすく感じました。

帝国書院ですが、「学習の前に」の大きなイラストで問いかけ、「学習課題」を提示し、「確認しよう」、「説明しよう」、さらに「アクティブ公民」、「章の振り返り」という流れが設定されていて、主体的に知識が習得できる工夫がされていると思いました。特に現代社会の章の「学習の前に」のイラストは、45年前と現在の比較を通じて、現代の問題である少子化や信号機のLED化、モバイルフォンの普及と公衆電話の減少といったような事項が実感できるようになっていて、おもしろいと思いました。また、デジタルコンテンツは、「NHK for school」の動画もあり、分かりやすいと感じました。「18歳への準備」や「高等学校への準備」というコーナーがあり、さらに社会参画の意義についても書かれていて良いと思いました。

以上より、イラストが大きくて課題が分かりやすい、最終的に社会参画の意義も強調されていた帝国書院を推薦したいと思います。

**○秋元委員** 私は、主体的に社会に参加する力を育むという点で帝国書院を薦めたいと思います。「学習の前に」というところでは、単元の最初に見開きで大きい図を使っているので、想像力が膨らみやすく、生徒の興味をうまく引き出していると思いました。また、生徒同士が話し合う機会、それにより学習課題を掘り下げられるような流れが設定がされているところが良いと思いました。また、「アクティブ公民」では「パン屋さんを起業しよう」など、将来挑戦する可能性がある事例なども取り上げられており、様々な観点からの資料が提示されているところが良いと思いました。また、それをもとに、達成するためにどうしたら良いか、話し合いや議論をすることも様々な視点で考えることができる仕組みが取られているところが良いと思いました。また、写真やイラスト資料が全ページ豊富で分かりやすく掲載されており、理解がしやすいと思いましたので、帝国書院を推薦いたします。

**○井上委員** 教育出版を推したいと思います。学習のはじめにこれから学ぶこと、学習課題を分かりやすく明示してあるものが良いと思いました。資料や吹き出し、「LOOK!」を読むとどのようなことを学ぶのか、内容がつかめる、配色もとても見やすいと感じました。学習の確認や深める意味で、巻末の用語解説、諸法令集などは他社と比べてもとても見やすく、読みやすいと思いました。

**○柳下教育長** 私は、帝国書院を推したいと思います。小田原市教育委員会の目標が、子どもたちの社会力を育むとなっています。社会力というのは、子どもたち一人ひとりが自分を輝かせて充実した人生を送り、より良い地域社会をつくる力のことです。主権者として、自分を、他者を、ともに自分たちを磨き上げていくことが重要で、ともに地域社会をつくっていく力、こういうことを育むことが必要だと考えています。そういう力がつく教科書が良いと思っていて、そういう観点で各教科書を見ました。その中で帝国書院は、興味関心を引き出し、また、生徒同士の対話から学習課題を見出す工夫がされています。この生徒同士の対話ということが私はとても大事だと考えます。現在の中学の社会科の授業を見に行ってみる

と、やはり教師が中心で、教えるという形を多く見ますが、そこから脱却して、子どもたち同士が話し合い、高め合う、そういう授業が良いと思います。そういう観点から帝国書院の対話から学び、学習課題を見出す工夫ということは大切だと思います。「学習の前に」という単元の導入では、見開きの大きな図があり、そういう図も工夫の一つだと思いますし、「学習を振り返ろう」では、知識や理解度の確認をするだけではなく、思考や対話を引き出すような工夫がされていて、さらに次の問題への興味関心が湧いてくるというつくりになっています。まさに、社会力、主権者としての力を育むことにつながると思い、帝国書院を推したいと思います。

**○柳下教育長** それでは、皆様から御意見を伺いましたので、多数決に移ります。出版社名を読み上げますので、挙手をお願いします。（1社ずつ、挙手による多数決）

東京書籍	…	0票
教育出版	…	1票
帝国書院	…	4票
日本文教出版	…	0票
自由社	…	0票
育鵬社	…	0票

**○柳下教育長** 多数決の結果、「帝国書院」が候補となりました。

**○柳下教育長** 地図の候補の決定を行います。地図は2社が発行しております。委員の皆様から御意見を伺います。

**○益田委員** 地図は、地理の勉強と連動していると思うので、私は地理も帝国書院が良いと思ったので、地図も帝国書院が良いと思いました。帝国書院は、大判で色の濃淡がはっきりしているので、高さなども良く分かりますし、細かいところまで見やすくなっていると思いました。資料も様々な角度からのものが掲載されていて、地域ごとの特色もつかみやすくなっていると思いました。

**○菱木委員** まず、東京書籍ですが、一般図と主題図の使い方、それからSDGsや世界の地形そして異常気象の一因でもあるエルニーニョ等で注目されている海流を含めた世界気候の後に世界の気候問題なども取り上げていて、地図帳には答えが載っていない問題を提示し、生徒が能動的、対話的な学習につなげる工夫がされていて良いと思いました。デジタルコンテンツのデジタル地球儀「My globe」が宇宙からの目線で地球を眺めるというコンテンツで、今までにないおもしろいコンテンツだと思いました。

帝国書院ですが、地図自体の色使いが工夫されていて特に山脈は非常に立体的に記載されていて、イメージがつかみやすくて良い印象を受けました。また、地図の基本的な見方や使い方もていねいに解説されていて、まず世界を取り上げて、それから日本の順に掲載されていたため、学んでいる生徒にとっては、世界の中の日本ということを意識させるような配列が良いと思いました。また、要所に配置されている問いコーナー「地図で発見！」は、生徒

が社会的な見方や考え方をを使って、世界が直面する課題について追究、検討し、そして他の生徒と話し合うことで、協働で取り組むという工夫がされていました。デジタルコンテンツでは、アニメーションやクイズ、ジオグラフ等があり、楽しんで世界と日本を学ぶという工夫がされていたので良いと思いました。

以上から地形のイメージがつかみやすく、地政学的な考察も可能な構成になっている帝国書院を推薦いたします。

**○秋元委員** 私は、帝国書院を薦めます。圧倒的に見やすかったこと、世界地図では自然環境や生活文化、産業をイラストを使って鳥観図を取り入れているので、見やすいからこそ興味関心が高まるのではないかと感じました。また、様々な題材が描かれているので、例えば大気汚染や電力など、その地域の特色だけではないもの、社会科だけでなく様々な知識を深めることができる資料が豊富に掲載されている印象を受けました。私は地理も帝国書院を推薦しましたが、地図も同じく帝国書院が良いと思います。

**○井上委員** 帝国書院が良いと思いました。地図の色味が見やすく、土地の高低なども分かりやすいと思いました。地図上の情報量も適度で良いと思いました。地図上にたくさん書き込みがあると、非常に地図が調べにくかったり、読みにくいということがあるのですが、その辺も適度な量で良いと思いました。資料もそこに見合った資料で、関心を持って読めるようなことが記載されていて良いと思いました。それからもう一つは、地図が色合いや配置などが、小学校から続けて見慣れているものになっているので、同じような状況で学べるのは、扱いやすいのではないかとというのが大きな理由となります。

**○柳下教育長** 私は、帝国書院を推したいと思います。地図からその地方の生活や文化、また公民や歴史で学んだことが想像できたり、確認できたりする、地方と地方の関係性に気付いたり、そこで暮らす人々の生活に興味を持ち、暮らしぶりなどを想像できたりする、そこに行ってみたいと思えることが大切だと思いました。ページを開いたときに、興味を引くような色合いがされており、山地と平地の違いが一目でわかるようになっています。また、産業や農産物、歴史的背景も分かりやすく掲載されている、小田原市と比べて〇〇市はこんなに標高が高いところにあるとか、だから、〇〇産業は、発達したとか、だから人口が減って高齢者が増加しているとか、今後、この市はどうして行くのだろうか、小田原市はどうなっていくのだろうかというような、見方や考え方が広がるような、学習指導要領の目標に「社会的な見方・考え方を働かせる」とありますが、そういう意味で帝国書院を選びました。

**○柳下教育長** それでは、皆様から御意見を伺いましたので、多数決に移ります。出版社名を読み上げますので、挙手をお願いします。(1社ずつ、挙手による多数決)

東京書籍	…	0票
帝国書院	…	5票

**○柳下教育長** 多数決の結果、「帝国書院」が候補となりました。

○柳下教育長 次に数学の候補の決定を行います。数学は7社が発行しております。委員の皆様から御意見を伺います。

○益田委員 数学は、苦手な生徒が多いというところで、苦手意識を持たせないような工夫がされているものが良いと思いました。そのためには、段階ごとに確かな学力を定着させることが大切であると思います。また、身近なことから数学への興味を持たせる工夫がされていることが大切だと思い、そこに着目して選びました。その中で、啓林館と学校図書が良いと思いました。

啓林館は、学習の流れが分かりやすく、演習量が多いので定着が図りやすいのではないかと思います。また、ノートの書き方のページが丁寧で、生徒たちがどのようにノートを取ったら良いかというのが、よく分かると思いました。

学校図書は、単元のはじめに、身の回りから疑問を発見して、問題解決につながる話し合いができるように構成されていました。学力を定着させるには、演習量とノートに書くことが大切だと思っています。そのために、学校図書も巻頭の「ノートの書き方」というところが分かりやすくなっていて、各単元の演習量も適切だと思いました。また、QRコードを読み込むと、何が見られるのかということが明確にされているところも生徒にとって良いと思いました。

以上のことから私は学校図書を推したいと思います。

○菱木委員 私は、東京書籍と学校図書で迷ってしまいました。

まず東京書籍ですが、各節が「調べてみよう」、「考えてみよう」、「学びをふり返ろう」で、数学的な思考を学び、基本問題でそれを実践して、さらに章のまとめの問題ABで学力を高めていくという構成になっていました。巻末の「もっと数学をつなげよう」のコーナーでは、「数学の目でふり返ろう」のほかに、学びのベースで、前学年の復習ができたり、「補充の問題」でさらにトレーニングを積むことができるようになっていました。それから「数学の自由研究」というおもしろいコーナーでは、生徒自ら進んで考えることができる課題も掲載されていて、総合的にかつ数学的な力を伸ばす工夫ができていておもしろいと思いました。ただ、毎ページに一つデジタルコンテンツがあり、これだけデジタルコンテンツが多いと教科書を読み進めていくときに学習の速度が上げられない可能性がありましたのでそれが残念だと思いました。

学校図書は、問題ごとに「見方・考え方」、「デジタルコンテンツ」、「アニメーション」で考え方を学んで、その後に「振り返り」で確認し、章のまとめの問題で、さらに基本と応用と活用と3つに分類されていて、習熟度に応じて自分で選んで確認をするという構成となっていました。「高校へのかけ橋」という項目も設けられていて、受験も意識している構成になっていました。デジタルコンテンツですが、数学は解き方がいくつもありますが、授業で全部習うのは難しいですが、デジタルコンテンツは、違う解き方を解説しているというところもありました。「データ」のコーナーでは、スグパラというソフトで表やグラフの作成を実際に自分でやるというように構成されていて、生徒たちが将来使用するであろう表計算ソフト「Excel」も意識されていると思って見ていました。

以上から習熟度に応じた確認ができて、さらに問題を進めることで復習でき、受験も意識されていて、将来使うであろうコンピューターソフトも意識されているところが良いと思いますので、学校図書を推薦いたします。

**○秋元委員** 私は、数学は学校図書を推薦いたします。まず、クエスチョンマークで大きく例題が強調されているところから、数学が苦手な子でもそこを見るところで、何を、どう学習していけば良いのか、分かりやすいと思ったことと、單元ごとに基礎を身に付けているか確認できるように、「確かめよう」とか、「計算力を高めよう」というコーナーが設定されているので、段階的に使いやすかったです。理解を深めたいときは、QRコードが充実しており、解答を見ることができ、自宅で学習をしやすかったです。章のまとめの問題では、基本、応用、活用の三つの分類がはっきりしているので、自身の理解度を段階的に確認できますし、個人の学力に合わせて、学習がしやすかったです。

**○井上委員** 啓林館を推したいと思います。他社と比べて、難しい内容もあります。しかし、質の高い学びができるのではないかと思います。神奈川県内の市町村でも4割ぐらい使っているところがあるようですが、先日文科省から、全国学力・学習状況調査の結果が発表されましたが、数学の基本的な力というの、下がっていますが、特に思考力を問うような力がだいぶ下がっている結果でした。少し考えさせるような、思考力が付けられるような、このような難しいと言われている教科書を採用することで、小田原の子どもたちの学力アップにつながっていくのではないかと思います。例題解説がていねいに、分かりやすくなっていること、QRコンテンツには練習問題が十分にあって、例題の解説動画やICTを活用した練習問題を解くことができ、自主的に学習を進められること、章ごとの「数学ライブラリー」は学びを深めることができ、巻末の「数学広場」では振り返り学習ができ、解答、解説動画も用意されているので、自学自習でも繰り返して勉強し直すことができる、本文の配列や配色、フォントも見やすく、自分でやっていこうとする気持ちにもなれるのではないかと思います。難易度が高いと言われていますが、現場の先生たちの応援によって学力アップにつながられるような教科書として啓林館を推したいと思います。

**○柳下教育長** 私は、学校図書と東京書籍と迷いましたが、学校図書を推薦したいと思います。数学も算数もできる子はどんどんできて、難しい問題もどんどんやりますが、苦手意識を持っている子もかなりいます。そういう意味で、小学校から中学校に進学して、教科の名前も変わるわけで、難しいというイメージを持つ子も多いと思います。そこで、できるだけ、違和感なく、興味関心を持って学びに向かえることが重要だと思います。ある中学校の入学式の自己紹介で、数学の先生が、「算数よりやさしい数学の担当です。」と言っていました。子どもたちに違和感なく、拒否感なく、数学を学んでもらいたいとの数学の先生も思っていると思います。そういう点で、「数学へのいざない」で身の回りのどのようなところで数学が役に立っているのか、数学史の中で数学がどのような発展をしてきたのかということを知ることで、数学への学習の意欲を高める工夫がされている点が良いと思います。また、二次元コードの掲載、活動アニメーションなどの工夫も良いと思いますし、「ふりかえり」、「確かめよう」などのコーナーを設けて、既習事項の確認や基礎的・基本的な知識や技能が習得ができると思いました。既習事項の確認はとても大切で、次に進むうえでは、私はなく

てはならないものだと思いますし、定着が図れるようになっている点が良いと思います。また、学習の見通しと、どれだけ理解ができたかが分かるつくりになっている点が、小学校から中学校へのスムーズな流れと興味関心を持って意欲的に楽しく学べる、そのような教科書だと思い、私は学校図書を推したいと思います。

**○柳下教育長** それでは、皆様から御意見を伺いましたので、多数決に移ります。出版社名を読み上げますので、挙手をお願いします。（1社ずつ、挙手による多数決）

東京書籍	…	0票
大日本図書	…	0票
学校図書	…	4票
教育出版	…	0票
啓林館	…	1票
数研出版	…	0票
日本文教出版	…	0票

**○柳下教育長** 多数決の結果、「学校図書」が候補となりました。

**○柳下教育長** 次に理科の候補の決定を行います。理科は5社が発行しております。委員の皆様から御意見を伺います。

**○益田委員** どの教科書も課題を見つけて、実験・観察をして、結果から考察するという探究のおもしろさを伝える内容になっていました。

その中で、私が良いと思ったのは啓林館です。啓林館は、「探Q実験」、「探Q実習」、「探Qクラブ」のページから、巻末の「探Qシート」につながっていて、学習の流れがとても良いと思いました。一連の流れの中で考える力が育成されると思いました。また、力試しの部分では、資料などを読んで自ら自分で考える問題が充実していると感じました。その他にも「サイエンス資料」や「科学コラム」の中で防災、料理、職業など様々なものを取り上げていて、他教科との関連があって、その中で学んだことを自分の人生や生きていく社会に活かせる工夫があると思いました。

**○菱木委員** 私は東京書籍と啓林館が良いと思いました。

東京書籍は、単元のはじめにダイナミックな写真と「スタート動画」で、その単元で学ぶことを確認して、理科学習の基本となる問題発見をして、観察・実験し、分析・解釈をして、さらに振り返るという5段階のステップが教科書の左側に示されていて、生徒が今、自分がどの段階を学習しているのかが分かるような工夫がされていました。また、「Before & After」で単元内容の振り返りがあり、生徒自身が自分の考えの変容を自覚できるような工夫もあって良いと思いました。

啓林館は、章の構成に特徴があり、高校の生物、地学、化学、物理を意識した形で生命、地球、物質、エネルギーの4章が設けられていました。各章の1ページ目の写真は少し不思議で興味を引くような現象等を掲載し、デジタルコンテンツの「はてなスイッチ」で、スム

ーズな導入ができる工夫がされていて良いと思いました。「探Q実験」では、目的、方法、結果、考察をして最後にレポートを記載するというような理論的な流れを意識して学習できるような構成となっていて良いと思いました。また、節ごとに「Action—活用してみよう」が配置されていて、学習で得た知識や技能が日常で自分が使用している器具にどのように活かされているのか、また、自然現象が自分なりにどのように説明できるのかというような、実感できるような場面が多く設定されていました。そして各章の終わりの学習のまとめや力試しでは、知識の確認や定着を図ることができ、「探Qクラブ」では、考える力の育成も図られていて良いと思いました。

以上から高校での学習を意識していて、探究を全面に押し出し、理論的な考えも意識させている啓林館を私は推薦したいと思います。

**○秋元委員** 探究心を引き出してくれる教科書ということで、私は啓林館が良いと思っています。単元の導入ページにダイナミックな写真が掲載されていて、目を引きませんが、そこに「はてなスイッチ」というQRコードが掲載されていて、そこから動画視聴をすると、何を学ぶのかイメージしやすいと思います。また、探究を通して学ぶという構成が分かりやすく、「探Q実験」を設定していますが、仮説や計画など、生徒が主体的に学べるような内容になっているところ、また、「学ぶ前にトライ！」では、その単元の学習を通して成長を実感できるところが学ぶ意欲を高めるのではないかと思います。

**○井上委員** 啓林館が良いと思いました。探究しながら学んでいく構成で、興味関心を持たせていく教科書だと思います。理科は、観察や実験が大きな課題となりますが、目で見ると大事な部分があるという点から本文説明と写真、資料等の配置が見やすく編集されていると思いました。章末ごとにある「学習のまとめ」、「力だめし」は、単元ごとに学習の確認ができて良いと思いました。サイエンス資料は、様々な題材が示されており、理科に必要な計算、説明がまとめてあり、生徒にとって覚えておいてほしい資料であると思いました。「探Qシート」は、単元ごとに「探Q実験」、「探Q実習」に対応し、生徒が主体的に取り組み、考える力を育てる工夫がされていると思いました。

**○柳下教育長** 私は、東京書籍と啓林館とで迷いましたが、最終的には、東京書籍を推したいと思います。

啓林館は、探究を中心に課題の把握、追究、解決という流れになっていて、統一感のある構成がとても良いと思います。また、学習の振り返りもしっかりできると思いますし、小田原の教材化を進めている上で、小田原城の石垣が出ているというところも良いと思います。

東京書籍を選んだ理由は、学習の流れが良いと思います。工夫がされているということと、「問題発見→課題→仮説→構想→実験、観察→分析・解釈、検討・改善→結論→振り返り、活用」という難しそうに見えますが、学習の流れが良いと思います。学習の流れに工夫があること、それから、単元のはじめに大きな写真があることも興味を高め、その工夫も良いと思います。私は、小学校の教員ですが、理科で校内研究をしていた教師の経験から、問題発見ということが非常に重要で、自分ごととして捉えた問題は追究していく意欲が高まります。「Before & After」で、自分の考えが変容していくことを捉えることは、学

びの意欲が高まり、理科が好きになる、そのようなつくりになっているのではないかと考えましたので、東京書籍を推したいと思います。

○柳下教育長 それでは、皆様から御意見を伺いましたので、多数決に移ります。出版社名を読み上げますので、挙手をお願いします。（1社ずつ、挙手による多数決）

東京書籍	…	1票
大日本図書	…	0票
学校図書	…	0票
教育出版	…	0票
啓林館	…	4票

○柳下教育長 多数決の結果、「啓林館」が候補となりました。

○柳下教育長 以上により、令和7年度使用中学校の教科用図書については、国語「光村図書」、書写「光村図書」、地理「帝国書院」、歴史「帝国書院」、公民「帝国書院」、地図「帝国書院」、数学「学校図書」、理科「啓林館」が候補となります。この8つを令和7年度使用中学校の教科用図書として採決してよろしいでしょうか。

（異議なし）

採決…全員賛成により原案のとおり可決確定

---

7 柳下教育長閉会宣言

令和6年8月28日

柳下教育長

署名委員（井上委員）

署名委員（菱木委員）